

策定の趣旨

- ① 新幹線開業後の富山県の将来を、短期的思考にとらわれず中長期の視野に立って展望することが重要。
- ② 富山県の将来像とその展開方向を掲げ、当面又は将来に講ずべき政策を組立て、展開していくため、「富山県経済・文化長期ビジョン」を策定。
- ③ ビジョンの策定を通じて、本県の新しい未来を構想し、活力と魅力あふれる県、ひいては日本創生の一翼、一端を担い得る県として、次の世代に継承・発展。

基本的考え方

◆なぜ「2045年」を展望年次とするか

- ・今産まれてくる子供が社会人となるまでの年月
- ・富山県における人口構成の転換点

◆富山県の強みと弱み

- 強みを最大限に発揮し、弱みを強みに変える
- ・勤勉でチャレンジ精神旺盛な県民性
 - ・アジア大陸に向けた日本の玄関口という地の利
 - ・人づくりに力を注ぎ「教育県とやま」を作り上げ 等

◆ビジョンの視点

以下の視点を踏まえ、将来像や展開方向を組み立てる

- ①経済と文化の相互作用
- ②第4次産業革命への対応
- ③パワーバランスの変化、グローバル化への対応
- ④「富山アイデンティティ」の継承
- ⑤新ゴールデンルートの確立
- ⑥生涯現役社会の実現と健康寿命の延伸

◆2045年の将来像を描くための考察

予測される未来社会を富山県の将来に適合させて、将来像や採るべき展開方向を考察

[予測される日本、世界を取り巻く大きなトレンド]

- ①人口の変化
- ②技術革新
- ③環境の変化、災害リスク
- ④グローバル化・フット化
- ⑤交通基盤整備 等

◆将来像（三つの「的」、ターゲット）

- 「新たな価値創造2045」
- 「グローバル&ローカル2045」
- 「人、地域が輝く2045」

◆ビジョンの構成

- 3つの将来像ごとの「9つの展開方向」に目標を設定
- 「採るべき構想」は、別紙とりまとめ
- 構想の実現に向けては、様々な主体が役割を發揮

3つの将来像と展開方向

【将来像1】 新たな価値創造2045

第4次産業革命による技術革新、温暖化への対応、質の高い新たな文化の創造、未来社会に向けた人材育成など、新たな価値を創造し続ける、と同時に、守るべきものを守り、あるものを活かす社会

【将来像のイメージ】

- ・本県の優れた製造技術等が、人工知能の進化等の技術革新に連動して発展し、あらゆる産業で創造的なイノベーションを通じ、新たな価値が創出
- ・地域の風土・自然、伝統的文化活動が次世代へ継承・維持されると同時に、魅力を発信し続けるクリエイティブで質の高い新たな文化が創出
- ・未来社会の産業・文化の「人材」、未来を切り開く行動力や豊かな感性等を有する「人材」を育成する教育が充実され、絶えず新たな価値が創造

【将来像2】 グローバル&ローカル2045

「グローバル&ローカル」の融合により、新たなイノベーション、洗練されたデザインによる新製品、新サービスや、磨き上げた質の高い文化や人材などの魅力(ソフトパワー)により、国内外から人や企業が集積している社会

【将来像のイメージ】

- ・独創性のある「ローカル」の製品等が「グローバル」な市場の需要を喚起し、それに応えた製品の向上により、県内の企業・地域の価値が向上。高度人材や先進的な企業が国内外から集積し、更なる高付加価値の製品・サービスを創出
- ・多彩で優れた文化資源に魅かれた観光客等により地域経済が活性化。「とやま文化」が海外に直接発信されるとともに、文化を通じた人的交流により継続的な進化
- ・日本人、富山県人のアイデンティティを保持しながら、国際的に活躍して海外の産業技術や文化を吸収、本県に還元できるハラス感覚ある人材を育成し、そのネットワーク等による信頼が発信源となって人材・投資を引き付け

【将来像3】 人、地域が輝く2045

すべての人のキャリアアップの環境が整備され、誰もが文化活動に参加し、才能ある多様な人材に溢れている。若者、女性、高齢者など多様な人材や地域力が研磨され、ダイバーシティを尊重する心豊かな県民が集い、経済と文化が響きあい共生している社会

【将来像のイメージ】

- ・個々人が、年齢や性別に関わらず、常日頃からキャリアアップを図り、潜在的な能力を向上し、健康を保持し、家庭、子育てなどライフイベントを楽しむ環境整備
- ・身近な環境で、多様な文化に子どもの頃から気軽に触れる機会があることで、文化の担い手として活躍する人材が自然と輩出され、質の高い文化の創造の基盤が形成
- ・互助の精神の下、国内外から訪れた人材が地域に溶け込み、ダイバーシティを尊重する心豊かな県民が、地域間での情報の密度を引き上げ、経済や文化が響き合う新たなコミュニティを創出

ビジョンの展開方向

1 生産性向上と新たな価値創造の創出

労働力減少に対応した生産性向上とストックを活かした新たな需要創出を図る「とやまバリュー」の創造を目指す

2 地域文化が生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」の形成

富山の文化的ポテンシャルを活用・発展させ、県民生活に溶け込む「生活文化デザイン王国」を目指す

3 価値創造力を高める学校教育プログラムの確立

社会や企業が求める基礎力、イノベーションを生み出す「富山・新スタンダードの確立」を目指す

ビジョンの展開方向

4 世界に存在感を示す「とやまグローバル戦略」の展開

新興国をはじめとした成長エネルギーを取り込みながら、世界で存在感を示すグローバル戦略の形成を目指す

5 世界に開かれた「とやま文化」の発信

自己認識の基点となる文化の国際化を促進し、文化と産業、文化と観光の親和性を高め、とやま文化発信を目指す

6 ふるさと教育とグローバル教育の融合(Think global, Act local)

学校、家庭、地域が一体となったふるさと教育(学習)を推進するとともに、グローバル化に対応した教育環境を整備

ビジョンの展開方向

7 個の力を磨き上げ、潜在力を高める人材戦略の推進

高度専門人材の育成確保、クリエイティブ人材の創出、高齢者や女性のパワーアップなどの人的資源戦略を進める

8 文化芸術の力による「元氣とやま」の牽引

文化の場づくりと文化の人づくりを促進し、文化の力が持つ心の癒し、生きがいづくりにより元氣富山を牽引

9 地域の生産性、問題解決力(地域力)の向上

地域力を高めるため、地域内での情報の密度を引き上げ、経済や文化、人づくりが響きあう地域づくりを推進